

NEWSLETTER 20

GLOBAL MAPPING

地球地図第1版、広島地球地図フォーラム2000で公開



「地球地図フォーラム2000」が2000年11月28日～30日、広島市の広島国際会議場で開催された。本フォーラムには33ヶ国から250名が参加し、6つの口頭セッションと1つのポスターセッションで50の発表が行われた。本フォーラムのハイライトは地球地図第1版の公開宣言であった。地球地図に現在参加する81ヶ国は、目下、自国の地球地図の整備を行っている。それらの国々のうちトップランナーとして、ラオス、ネパール、スリランカ、タイと日本が完成し、データが2000年11月28日から地球地図国際運営委員会の新しいホームページ<<http://www.iscgm.org/>>で正式に公開されている。公開されたデータは、現在、非営利目的の利用のためにダウンロードすることができる。

本フォーラムは、この種のフォーラムとしては、1997年の岐阜と1998年のスーフォールズに続き3回目であった。今回のフォーラムの主題は地球規模の地理情報データの利用により多くの焦点があてられた。

本フォーラムは、地球地図国際運営委員会委員長のジョン・E・エステス教授の開会の挨拶

で開幕し、広島県知事の藤田雄山氏の歓迎のことばが代読された。東京大学名誉教授の近藤次郎博士と広島市長の秋葉忠利博士の基調講演が行われた。近藤博士は地球地図の歴史を振り返り、地球環境研究のための地球規模の地理データの重要性を強調した。また、秋葉市長は、広島歴史を紹介し、植物の生命は広島の生存のシンボルであり、地球環境のシンボルでもあることにふれ、本フォーラムの広島での開催がいかに重要かを述べた。

技術的な論文の発表をとおして、最初の国々に続き、多くの国々の地球地図が完成間近であることが明らかになった。また、利用者側も、地域開発計画策定、防災、資源管理や地球環境研究のために地球地図に大きな期待を寄せていることも明らかになった。

最後に、フォーラムは広島地球地図宣言を採択し閉幕した。

フォーラムの開催に先立ち、11月27日に広島工業大学と世界文化遺産である宮島への巡検が行われた。11月30日の午後、フォーラム終了後に、データ政策に関するワーキンググループ3の会合が行われた。

広島地球地図宣言(仮訳)

私達、日本国広島市で開催された地球地図フォーラム2000の参加者は、地球地図第1版の一般公開を祝い、2000年11月30日の総括セッションにおいて本宣言、広島地球地図宣言を採択する。この有形の地球地図が、私たちの壊れやすい地球を守るために必要な行動についての共通の理解のもとで、世界各国をまとめることを可能にするであろう。

1992年に、世界各国は地球規模の持続可能な開発の行動計画であるアジェンダ21への参加を行ったことを思い起こす。

さらに、1994年、リオ・サミットの直後に、アジェンダ21の実現を支援するため、西暦2000年までに世界を網羅する数値地図を技術協力により作成する地球地図国際運営委員会構想を日本国出雲市においてまとめたことを思い起こす。


地球地図国際運営委員会の功績と成功を認め、世界中の人々に向けた平和と調和の象徴である美しい広島市においてこのステートメントが作成された意義を心に留める。

地球地図の自国部分の検証と維持の実行を約束した81ヶ国に感謝する。

地球地図への参加の意思をまだ表明していない国々に対して奨励する。あなたがたの参加が地球規模の持続可能な開発の未来像の実現にとって不可欠であることを。

現在私たちへ向けられている挑戦は、地球地図の維持と促進であり、地球地図の可能な限り広範囲なアクセスと利用をもたらす政策の実施であり、地球地図を高度化するために貢献する多くの個人や団体と協力しつづけることである。

広島市民の歓迎に心から感謝する。広島市民の飽くなき平和の追求は私たちに地球規模の課題に対する地域の行動の重要性を思い出させ、地球地図国際運営委員会委員長は、広島市の学校に生徒達に自分たちのメッセージを世界全体に広げるために植樹を行うことを提案した。また、調和のとれた地球の存在への生徒達の行動が、私たちの新しいミレニアムのための地球地図への協力を通しての、より良い、より持続可能な、本当に平和な世界の構想への更なる実行を勇気づける。

地球地図データのダウンロード  <http://www.iscgm.org>

地球地図国際運営委員会ワーキンググループ3：構想を成果品にする クロード・ルゼ EuroGeographics 理事長、地球地図国際運営委員会ワーキンググループ3 座長

地球地図は素晴らしい構想から飛躍し、さらに充実した。広島地球地図2000フォーラムにおいて、インターネット上で地球地図データの配布を正式に開始し、地球地図は現実のものとなったからである。このように現実化したことにより、プロジェクトの当面の計画策定や成果品の仕様といった今日までのより深刻な問題の陰に隠れていた幾つかの問題点が明らかになった。

地球地図の行為者は3つの部門から成り立つ。データ提供者である国家地図作成機関、プ

ロジェクトの運営者である地球地図国際運営委員会とその事務局、および末端の利用者とデータ加工業者からなる利用者である。地球地図が引き続き成功するためにはこの3種類の関係者すべての要求が十分に満たされる必要がある。

地球地図国際運営委員会のワーキンググループ3(データポリシー)は、本来技術的ではないがプロジェクトの将来にとって必須である諸問題を扱うために設立された。地球地図国際運営委員会はワーキンググループ3に以下の目的を与えた。

- ・国家地図作成機関がプロジェクトに地球地図データを提供するための枠組みとなる方針の整備
- ・地球地図データの利用と潜在的及び実際の利用者の再評価
- ・地球地図にアクセスするための枠組みとなる方針の整備

ワーキンググループ3の設立の決定は1998年のスーフォールズ・フォーラムまで遡り、インターネット上のバーチャルな会議で意見交換や議論はなされたが、ワーキンググループ3の議題のためだけに設けられたワーキングミーティングは、11月30日に広島で行われた会合が初めてである。本会合ではフォーラムの発

表や公式・非公式の議論から学んだ教訓、また地球地図の主要な関係者の出席という好都合な条件を最大限に利用した。本会合には地球地図国際運営委員会の主要な委員とともに、地球地図の主な利用見込み機関でありパートナーである国連地図課の代表など招聘された専門家も出席した。

会合では濃密なブレインストーミングが行われ、幅広い意見が述べられ議論されたが、紙面が限られているため、ここで手短かに述べることは出来ない。本ワーキンググループは、当面、2001年5月26日にコロンビアのカルタヘナ・デ・インディアスで開催される次回の地球地図国際運営委員会会合で発表される地球地図データと配布方針文書の準備に集中する。

PCGIAP 理事会 (報告)

PCGIAP 事務局

地球地図フォーラムは、国家地図作成機関(NMO)同士が共通の課題について意見・情報を交換する絶好の機会を提供した。アジア太平洋地域のNMOの集まりであるアジア太平洋GIS基盤常置委員会(PCGIAP)は、この好機に合わせ、11月26日、広島リーガロイヤルホテルにおいて理事会を開催した。

時宜を得て、中国、オーストラリア、日本、ブルネイ、インド、イラン、マレーシアの7ヶ国国より8名の理事会メンバーが参加した他、ISCGM 事務局長の秋山氏、中国のアドバイザー1名、日本側事務局より数名のスタッフも加わり、予定時間をはるかに超えて熱心な討議が行われた。

会長を務める中国のヤン・カイ教授は、開会宣言に引き続き、2000年4月にクアラルンプールで開催された第6回PCGIAP会議以降の活動を、オーストラリアから日本への事務局引継ぎ、モンゴルでの地域測地ネットワーク・ワークショップを中心に報告した。

副会長、事務局長にそれぞれ就任したオーストラリアのピーター・ホランド氏、日本の城処求行氏及び事務局からは、事務局引継ぎがス

ムーズに終了した旨の報告があった。

PCGIAPの実質的活動を担う作業部会の座長からは、活動計画が紹介され、大筋合意された。第1部会(座長:オーストラリア)は地域測地を、第2部会(座長:イラン)は基本データを、第3部会(座長:マレーシア)は地籍を、第4部会(座長:フィリピン)は制度強化を担当し、それぞれ積極的に取り組んでいる。

地球地図に関する秋山氏の報告は、空間データ基盤整備にとって不可欠な、グローバルな活動と地域レベルの活動の連携の重要性を浮き彫りにし、会議に大きな弾みをつけた。

次回のPCGIAP会議は、2001年4月24日から27日の日程で、つくばで開催される。議題については、ほぼ草案通り承認され、3日目にはアジア太平洋地域のGISをテーマに特別セミナーが開催される。

18時に閉会后、場所を和風焼肉レストランに移し、会長持参の強力な中国酒も入って、いっそう熱のこもった議論が繰り広げられた。

PCGIAPについては次の新しいホームページを参照されたい。

<http://www.pcgiap.org>

全地球空間データ基盤運営委員会会合

全地球空間データ基盤(GSDI)運営委員会会合は、地球地図フォーラム2000にあわせて、2000年12月1日、広島で開催された。本会合には、12の国や機関から合計21人が参加し、GSDIの活動状況、GSDIの構成、GSDI5の議事やGSDIをさらに促進するための他の関連活動との連携について討議が行われた。

GSDI事務局は米国連邦地理データ委員会(FGDC)に置かれ、GSDI整備のために積極的な活動を行っている。事務局では本活動をさらに強化するため、諸外国からの豊富な人的、財源的貢献を歓迎する。FGDCはGSDIのためのクリアリングハウス窓口を整備し、インターネットに掲載した。また、今年初めにFGDCがインターネット上でダウンロードできるようにしたGSDIクックブックの多言語への翻訳も歓迎する。GSDI事務局とISCGM事務局は、地球地図第1版のミラーサイトをGSDIのホームページに整備するため、緊密に連携する事に合意した。

GSDIの構成についての討議は、主に理事会と諮問委員会から成る運営委員会の構成に焦点をあてた。構成についての詳細は、事務局(FGDC)が起案し、GSDI5会議でまとめられる。

本会合の参加者は、第8回ISCGM会合を含む2001年5月21日からの5日間にわたる詳細なプログラムを詳しく述べた、GSDI5の議事や計画を作成したGSDI5委員長のサンティアゴ・ボレロ氏にお祝いを述べた。

また、ISCGM、UNGIWG、Digital Earth、PCGIAP、PCIDEA、OGCや国際的な学会等、他の関連機関や活動との連携の促進の重要性も参加者により確認された。

今回のGSDI運営委員会会合は、2001年1月24日グリニッジ標準時12:30に、国連米州地域地図会議と合同で国連本部において開催される。本会合に実際に参加できない方のために、会合の会場にテレコンフェレンス設備が整えられる。

地球地図の参加状況

地球地図の参加状況

2000年12月25日現在

地球地図の参加国・地域数	81ヶ国・地域
地球地図への参加を検討している国・地域数	35ヶ国・地域

地球地図への最近の参加国

アラブ首長国連邦測量局	10月17日参加
-------------	----------

地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2001年

1月22日～26日、米国、ニューヨーク

第7回国連米州地域地図会議

3月5日～7日、イタリア、ローマ

第2回国連地理情報ワーキンググループ本会議

3月8日～9日、ポルトガル、リスボン

第12回ISO/TC211本会議

4月24日～27日、つくば

第7回PCGIAP会議

5月22日～24日、コロンビア、カルタヘナ

第5回GSDI会議

5月25日、コロンビア、カルタヘナ

第8回ISCGM会合

6月24日～28日、カナダ、フレデリクトン

第2回デジタル・アース国際シンポジウム
<http://www.digitalearth.ca>

編集、発行：建設省国土地理院

地球地図国際運営委員会事務局

連絡先 : 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

Tel: 0298-64-6910 Fax: 0298-64-6923

E-mail: sec@iscgm.org

iscgmsec@graph.gsi.go.jp

<http://www.iscgm.org/>

<http://www1.gsi.go.jp/ch3www/globalmap-gsi/globalmap-gsi.html>